

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：幼保連携型認定こども園 YMCAいずみ保育園	種別：認定こども園
代表者氏名：井上 孝一	定員（利用人数）：129名 （利用人数：129名）
所在地：〒245-0018 神奈川県横浜市泉区上飯田町1872-1	
TEL：045-800-3010	ホームページ： https://hoiku.yokohamaymca.org/izumi/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2021年4月1日(認定こども園移行) ※認可保育園としては2005年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人横浜YMCA福祉会	
職員数	常勤職員：21名 非常勤職員：26名
専門職員	園長：1名 主任：1名
	保育教諭・保育士：37名 栄養士：3名
	調理員：2名 看護師：1名
	事務員：2名
施設・設備 の概要	保育室：6 トイレ：4（子ども用）
	調理室：1 事務室：1
	園庭：あり

③ 理念・基本方針

【YMCAの教育・保育の理念】

イエス・キリストの愛と奉仕の精神に基づき一人ひとりのいのちが輝く平和な社会の実現を目指します。

【YMCAの教育・保育の使命】

【子ども】 一人ひとりの子どもが愛されていると感じることができるようにより育てます。

【家庭】 子どもの成長をともに喜び合えるように家庭と手を携えていきます。

【地域】 地域の人々と、ともに生きる社会の形成を担います。

【保育の特色】

イエス・キリストの教えに基づき以下の事柄を大切にしていきます。

○子どもの主体性を育む保育

○自然にふれ、健康な心と体と豊かな感性を育む保育

○さまざまな活動や遊びを通して子どものやってみよう気持ちを大切にする保育

○違うことの大切さを認める保育

○仲間と共に育ちあう保育

④施設・事業所の特徴的な取組

園は自然豊かな場所にあり、近隣には大小さまざまな公園や川辺などがあり、園児は外あそびを楽しめる環境にあります。とても近い場所に上飯田小学校もあり、卒園児をはじめ児童との交流も積極的に行っています。(現在コロナで休止)キッズをボランティアとして、放課後に小学生が園児と一緒に遊ぶ活動もしています。これにより園児はモデルが継続することができます。

園は横浜YMCA保育園の1つであり、キリスト教保育の園として、日々こどもの成長を願い保育をしています。当園は2005年に横浜市 of 公立保育園の民間移管事業の1つとして、横浜市立上飯田保育園を引継ぎYMCAいずみ保育園としてスタートしました。そして2021年に幼保連携型認定こども園に移行し再スタートしました。当園がある上飯田地域には、外国にルーツのあるご家庭が多く生活しています。これは以前近隣に、日本が東アジアの難民受け入れをしていた際の定住促進センターがあり、定住促進センターの課程を終了された方が近くのいちょう団地に居を構えたことによります。このようなことから、2005年の開園当初より外国にルーツのある園児を多く受け入れています。毎年、保護者、そして園児自身が日本語コミュニティーにあまり属しておらず、日本語のコミュニケーションが難しい家庭の受け入れがあり、言語の支援なども行っています。このような環境から、開園以来、多文化共生保育を行っています。職員体制も、あえて、外国にルーツがある職員を配置しています。現在はベトナムにルーツがある職員が3名、ペルーにルーツがある職員が3名、中国にルーツがある職員が1名在籍しています。多文化共生保育は国の違いだけではなく、ジェンダーや文化、体格や障がいなど、違いがある大切さに気づき、共に支え合う社会の創出に繋がると考えています。

日々の保育は、こども自身の興味関心により計画を行い、園児自身が体験学習としての遊びの中で、達成感や満足感、時にはうまくいかなかった時の憤りなどの感情の自己認識できるようにしています。

また、YMCAの行っている事業を保育の中に取り入れています。具体的には山手台YMCAとの協働でプール遊び(山手台YMCAの温水プール)と体操遊びを年間を通して行っています。また湘南とつかYMCAとの協働で、英会話講師による英語遊びも取り入れています。静岡県富士宮市に横浜YMCAが所有している富士山YMCAグローバルエコビレッジにおいては、5歳児が夏と冬に2泊3日のキャンプも行っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月1日(契約日) ~ 令和6年3月14日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	回(年度)

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性を尊重した保育を実施しています

一斉保育は極力行わず、子どもの興味関心に沿った保育を実施し、遊びを選べる環境を作り出すようにしています。子どもたちは1日の流れも自然に理解し、主体的な生活をしています。遊びや活動に参加をしない自由も保証しています。食事の時間は、時間が決まっいて皆で食べるのではなく、自分が食べたい時、お腹が空いたときに食事をします。幼児クラスでは幅の広い廊下を利用したランランチスペースで好きな席を選び、食事をしています。片付け、下膳も自分たちで行っています。子どもたちは異年齢での日々の何気ない関わりや友だちとの遊びの中からたくさんを学んでいます。

2)開かれた運営と地域に向けた支援を行っています

子どもたちは園行事や卒園児交流会、地域ケアプラザの催事に参加しています。実習生、中学生の職業体験、小、中学生のボランティア（キッズボランティア）受入れの取組を通しての交流もあります。また、園として地域の子育て家庭を支援するため、園庭開放、地域ケアプラザで行われる催事や講習会に積極的に関わっています。小学生、中学生の居場所作りや、「キッズごはんや」との連携、日本語が母語でない国をルーツに持つ若い世代への支援、高齢者の生きがいボランティア養成等を計画・実施しています。

3)子どもが幅広い視野を持ちながら育っていくように取り組んでいます
毎月「世界の日」があります。一つの国をテーマに歴史や文化の説明を職員から聞いたり、その国の料理が給食に出たりします。「きずなの日」（福島、宮城、岩手、熊本が被災した日）では自然災害についてや防災への備え、自分たちに何ができるか等の意識を高める機会としています。「ピンクシャツデー」ではジェンダー、人権の尊重を考える機会としています。さらにSDGsの取組の一つとして、給食の残食がどれくらいあったかグラム数を記録した子ども向けの表をランチスペースに掲示することで意識を促しています。

4)職員が働きやすい環境づくりに努めています
法人の特徴の一つとして、育休後の復職率はほぼ100%と職員にとっては働きやすい環境となっており、毎年多くの育休取得者が出ています。その期間を埋める職員の補充に関しても法人の保育事業全体採用計画をもとに計画的に各園が適切な配置となるよう努めています。また、卒園生や実習生からの採用に繋がるなど、好循環も生まれています。

5)全体的な計画の内容を各園の計画にさらに反映される事が期待されます
全体的な計画は法人で作成し、全14園共通となっています。毎年園全体での話し合いの結果を踏まえ、さらに各園の特色が盛り込まれた内容（主な行事、地域の特色・交流・連携、小学校への接続・連携、子育ての支援、環境・衛生・安全管理等）を、年間指導計画以下の計画に反映されることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

YMCA保育園及び当園のミッション、教育・保育の内容を丁寧に見てくださり、ご評価いただけたことに感謝いたします。

こども園に移行して初めての第三者評価受審となりました。こども園に移行してからの3年間は、新型コロナの影響もあり、こども達と一緒に知恵を絞り、ご家庭の協力をいただきながら様々なことに挑戦してきました。また、保育・教育を取り巻く社会的要因の中、リスクマネジメントやコンプライアンスなどの課題に対応してきました。普段から職員全員で保育の振り返りをしていますが、今回の受診が良い機会となり、さらにマニュアルを整理や理解を深めることができました。

評価調査者のみなさまには、子どもの主体性を大事にする、私たちの保育の良いところにご共感いただき感謝するとともにうれしく思います。また、私たちが気が付かない良いところも教えていただき、自信を持つことができました。

利用者アンケートの結果からは、園の基本的な考え方を概ねご理解いただいていることがデータ上からもわかり、有難く思いました。一方で、情報のやり取りや、要望の伝えやすさなどでの課題も見えてきましたので、これらを改善し、利用者サービスの一層の向上に努めてまいります。

子育てや生活の様々なニーズに応えられる園として、幼保連携型認定こども園の機能を生かして、地域に根差してこれからも歩んでまいります。

どうもありがとうございました。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり